

2008 年度

科目名 フィールド・リサーチ A	対象学科・学年 人間人社 2 回生	担当者 岡島 克樹
授業テーマ 定性的調査法の基礎を取得する		
授業の概要と目標 図書館で文献を調べる、現場に足を運んで自分の目で観察する、人に話を聞く、アンケートを配って答えてもらう。知りたい疑問の答えに関する情報を集めて、分析するリサーチの方法はさまざまある。この授業では、特に、定性的調査法と呼ばれる調査法の中からインタビュー調査法とそこから得られた情報を整理する KJ 法を体験的に学ぶ。		
評価方法 グループ課題等を見て判断する。		
テキスト 適宜コピーの上、配布する。	著者	出版社
参考書 『フィールドワークの新技法』 『フィールドワーカー書を持って街へ出よう』	著者 中村尚司・広岡博之編 佐藤郁哉	出版社 日本評論社 新曜社
授業スケジュール・内容 はさみの使い方が書かれた文章を読んで覚えたらといって実際にはさみができるようになるとは限らない。本講では、ものごとをいろんな角度から切って考える「知的なはさみ」の使い方を実践の中で覚えられるようにトレーニングを行う。 1. はじめに（授業のルール、実技科目の学び方） 2. 思考の「幅」と「深さ」、調査法の種類概説（定性的調査法と定量的調査法およびその補完関係） 3. 社会科学の基礎： 調査結果と考察とは何か？（シノプシス作成作業 1） 4. 社会科学の基礎： 調査結果と考察とは何か？（シノプシス作成作業 2） 5. インタビュー調査法（その 1）：調査報告書の書き方・インタビュー調査の準備（その 1） 6. インタビュー調査法（その 2）：インタビュー調査の準備（その 2） 7. インタビュー調査法（その 3）：インタビューの実施 8. インタビュー調査法（その 4）：インタビューの実施 9. インタビュー調査法（その 5）：インタビュー結果の整理法（KJ 法その 1） 10. インタビュー調査法（その 6）：インタビュー結果の整理法（KJ 法その 2） 11. インタビュー調査法（その 7）：調査報告書のルール（調査報告書・レポートに必要な項目とは何か？） 12. インタビュー調査法（その 8）：調査報告書のルール（引用の仕方） 13. インタビュー調査法（その 9）：課題提出と調査報告書のピアレビュー 14. インタビュー調査法（その 10）：学生のレポートに見られる弱点の解説 15. まとめ なお、本講は、1 回生時の「人間と社会 B」において学んだ「現象の理解と諸原因の探求」というテーマを深める位置づけにあり、受講生諸君は、本講においても社会的な関心の幅を広めるとともに、社会問題の解決方法を探るグループ課題を通じて、「複雑で多量の情報を整理する能力」を高めることができる。 また、4 回生時には卒論に取り組むことになるが、文章作成能力はすぐにつくものではない。スポーツと同じで、2-3 キロメートル走を何度も走りこんで基礎体力をつけてはじめて 10 キロメートル走を満足のいく形で走りきれるように、2 回生時から 2-3 ページの報告書を自分の言葉で何度も書くことによって、卒論（1 ページ 1200 字とすると 10 ページ以上に相当する）でも満足のいく、達成感ある走りができる。文章作成能力を高めた諸君は是非受講するようにしてください。		